

リサイクル活動を通して

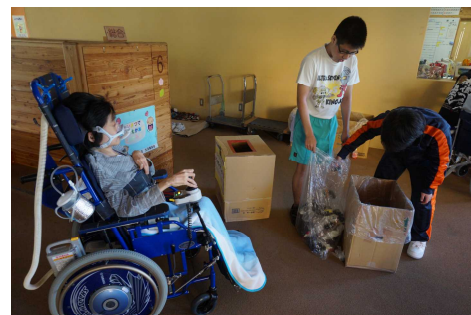
長野県稲荷山養護学校 和歌月 卓

1. リサイクル活動の実際

本校高等部では、全生徒が参加する生徒会活動があり、全部で7つの委員会で構成されている。その中のリサイクル委員会が中心となって、リサイクル活動を実施している。回収を行っているのは、牛乳パック、インクカートリッジ、プルタブ、ペットボトルキャップの4品目で、児童生徒のみならず、送迎に見える保護者の方も常日頃から回収にご協力いただき活動を行っている。

回収した物品は、それぞれの業者へと引き取っていただき、中でもインクカートリッジについては、ベルマーク活動の一環として、生徒が活用する物品と交換するなど、生徒にとっても楽しみな面がうかがえる活動となっている。

また、牛乳パックについては、近隣の福祉作業所との連携で、ある程度集まったところで作業所の方に引き取っていただき、それをまたパルプに戻すなどして製品の原料として活用していただいている。



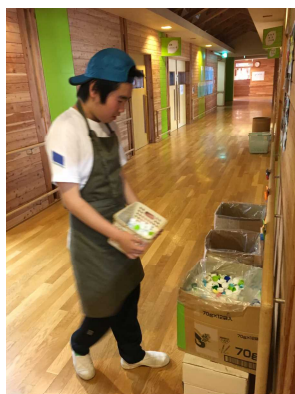
回収の様子

2. リサイクル活動から作業学習へ

このような活動を行っている中、単なるリサイクルという面だけではなく、回収したものを分別する活動を挟むことで、社会に貢献する意識を育むための活動の一環としても活用している。

本校では、働くための意義や意欲を学ぶ時間の一つとして、実習期間というものが設けられている。2・3年生になると、実際の職場に長期間出向き、実際に働く機会として、1年生においては、校内で企業からいただいた外注の仕事をする中で、働くための意義を学ぶ活動を行っている。この校内での仕事に、回収したペットボトルキャップを洗浄し、色や種類別に選別する活動を組み込んでいる。

実際に活動を行った生徒たちは、自分に任された仕事をこなす事により、自分の役割を理解し、社会における勤労意義の理解の一助となっているように感じる。



選別作業に取り組む生徒